

通し番号	中学校区	No.	大項目	小項目	分類	未回答	質問内容	回答
1	東中学校区	1	再配置の方向性	小中学校の再編			<p>小・中学校を中心とした地域公共施設の再配置は、効率的とは思いますが、学校になじめないお子さんやそのご家族へのフォローも十分にお考えいただけるのでしょうか。バリアフリー化も推進されるのでしょうか。</p>	<p>学校施設は教育の場ですので、子供のことを当然第一に考えていかなきゃいけないと思います。まず、安全・安心の学校でなければいけないということになります。また最近では、いじめや不登校等のたくさんの方がいます。そういったことについても、しっかり対応できるように考えていかなければならないと思います。</p> <p>それから、特別支援、発達障害のお子さんも全国的に増えております。そういったこともしっかり加味してバリアフリー化も当然進めていかなければならないと思っております。あと、先程いただいたご質問と回答の中で、少し付け加えてお話させていただきたいと思っております。小中一貫教育を、全市的に進めていくということを申し上げました。その中でやはり、将来、掛川市を担う子供達、未来を担う子供達が、どういった大人に育って欲しいかということを考えていった時に、ある程度の規模の学校がないと、人数が揃っていないと国や県が求める教育もそうですが、これから力強く生きていく、そういった力、生きる力と我々は言いますが、なかなか身に付いていかない。さらに、社会情勢がどんどん変化しております。これに追い付いていくだけでも本当に厳しい世の中になってきていると思っております。そういった時代をしっかりと見据えた上で、子供の教育を行っていかなければならないと思っております。市内全域として教育委員会が考えているのは、小規模校、単級学級校については適正規模・適正配置の考えと小中一貫の考えと合わせて再編の案件として検討しているところでございます。そうなってくると、先程も質問ありましたけれども、特に遠いお子さんについての配慮、学校に馴染めないお子さんへの配慮、また、いろいろな問題が生じてくることも考えられます。そういったものを十分に対応できるように検討して進めていきたいと思っております。</p>

2	東中学校区	2	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>現状、小中学校の立地場所のアンバランスがあると思われるが（掛一小・城北小など）、統合などを行う場合、どの場所を選ぶのか。その考え方は？</p>	<p>中学校区の中でも、非常に小学校同士が離れているというところもあるだろうし、立地場所のバランスが悪いというところもあるかと思います。今後、再編に伴って学校をどこに設置するか、学校施設だけではなく、先程言っているような、その地域に必要とされる他の施設も再編に絡んできます。そういった条件によって、再編する場所も変わってくると思います。アンバランスになっていった場合は、子供達の負担がないようにスクールバス等も配置して負担をかけないように考えていきたいと思っております。</p> <p>実際はもう一点大きな問題でございます。議会の中でも教員の不足ということで今の働き方改革で話題になっていると思います。教員の働き方がどうなのかということで問題になってかと思いますが、実はこの小笠・掛川地区だけでなく、全国的に教員が不足しています。特に地方へ行けば行くほど、数が少ないという感じがあります。静岡県内の教員の場合は、県の採用になりますので、県が合否を決めて配置をするということになっています。新聞等でご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、静岡県の採用倍率は3倍を切っています。これは本当でないことであって、それを埋めるために県も色々対応しているわけですが、これはどういうことかと言うと、教員の資質の問題になるかと思いますが。県にしてみれば良い教員が雇えないという状況になるかと思いますが。そういった状況の中で、掛川市内はどうなのかということですが、掛川市内の小中学校で掛川市出身の先生が以前は6、7割いたのですが、現在4割ちょっとでここ数年で激減しています。県内の大学だけではなく、県外を含めて今後教員を希望している数、こういったものを私は情報を集めているわけですが、なかなか掛川市から大学へ進んで、教員免許を取って戻ってくるというのが少し不安な状況であります。そうすると掛川市外から先生に来ていただいて、今6割弱ですけれども埋めて教員が仕事されているということになるわけです。これは教員に限らず、色々な職種で人不足と言われているかと思いますが。教員についてもそういう状況で県内の中でも、この掛川市は教員不足で少し悩んでおります。小学校になりますが、なかには70歳過ぎの方をお願いをしてなんとか教壇に立っていただいているという状況もございます。今後、やはり子供のことを考えた時に、きちんとした、なるべく子供にも年齢の近い先生に力をつけて、教壇に立って未来を担う子供に教えていただきたいと思いますが、現状としてはそういった施設だけではなく、教育確保の問題もあるということ知っていただきたいです。これ東中学校区だけの問題ではございません。承知いただければと思います。</p>
3	東中学校区	3	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>学区単位の考え方、東中の場合、旧掛川町、上内田村、南郷村、東山口村と歴史が違う、例えば大東、大須賀の単位の考え方が異なるのでは？</p>	<p>学区単位の考え方についてのご質問だと思いますが、学校再編を行うにあたり、東中の場合、旧掛川町、上内田、南郷、西山口、地域にそれぞれの歴史があり地域性も異なると思います。</p> <p>全体で見ますと、東中学校区は掛川市の中心部、市街地の学校になるかと思いますが。当然、山間部、沿岸部、大東・大須賀の地域と比較すれば、考え方も地域性も異なりますので、そういったことも踏まえて再編を考えていかなければなりません。</p> <p>学区の考え方というのは、現在の中学校区ベースの中で、どのように学校再編するかということをお教育委員会は考えています。どうしてもその枠に入らない場合は、他地区や他の中学校区への変更をするということもあると思います。今後、そういうところも含め検討していきたいと思っております。</p>

4	東中学校区	4	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み	<p>小学校は小学校で1校に集約、中学校は中学校で1校に集約するのか。それとも小学校・中学校をまとめて1校として建物を集約するのか。</p> <p>1校に集約すると生徒の通学に時間がかかる地域が出てくるのではないのでしょうか。</p>	<p>現在2年目になりますが、初年度は教育委員会だけで再編について考えました。今年度は教育委員会と消防局側の環境整備部局、大学有識者（第三者）といった方々を交えて研究会を立ち上げ検討を進めています。これから子供数が減っていくということは、東中学校区だけではなく、全学的・全国的な傾向にあります。それに伴って、小学校の再編だけではなくて、新たな教育を目指して小中一貫教育を充実させていくことも併せて検討しています。</p> <p>皆様が一番心配するのは、おそらく施設の老朽化が進み子供達は大丈夫なのか？子供数が減っていて大丈夫なのか？ということだと思います。特に施設のことよりも、教育の中身が低下することがあってはいけないということで、教育委員会としては今後20年間で施設を再編・再築することを考えていくと、やっぱり中身に差があっては困りますので、そこのところを先行して研究しています。掛川区域（北部）では、原野谷学園（原野谷中学校区）、それから大東区域（南部）では、城東学園（城東中学校区）で小中一貫教育の研究を進めています。そのような研究を土台にし、中身のところについては、しっかりとした掛川型の小中一貫教育ができるように研究を進めております。そのソフト面を充実させると共に、今後ハード面のご質問があった小中を一緒にするという点については、他施設と複合化していくという方向であるとなれば、その地域のこういった施設と複合化していくのが良いかという要素も入ってきます。それによって、小中で一緒にしていくのかということが決まってくると思います。その中でご意見として、1校に集約すると生徒の通学に時間がかかる地域も出てくるのではないかとありますが、当然集約をしていくと施設に近いご家庭、遠い家庭と出てきますので、遠いご家庭については現在スクールバスを配置している学校がありますけれども、そういったことも含めて検討をしていくところであります。</p>
5	東中学校区	5	再配置の方向性	その他		<p>市長交代時の取り扱いは？</p>	<p>本計画は今後50年間の計画期間としております。また、10年ごとに1期から5期まで区切り、各施設ごとに地域や利用者等の関係者の皆様と協議しつつ段階的に取り組んでまいります。</p>
6	東中学校区	6	説明会	説明内容		<p>東中学校区内の施設の再配置方針を資料3で具体的に説明してほしい。</p>	<p>太枠で囲ってない施設は現在のところ継続使用するという計画です。中央消防署については、建設したばかりなので継続使用していきます。板沢最終処分場は、赤枠ですので1期10年以内に廃止を検討していきます。和田団地は、他の市営住宅団地と合わせて統合を検討し黄枠ですので、今後20年間で統合を検討していく計画となります。また、宮脇第2団地及び仁藤団地は青枠ですので、今後30年から40年の間に統合を検討する計画となっております。その他の太枠で囲っていない施設は今のところ継続使用していきます。上内田のここにこひろばについては、黄枠ですので、今後20年の間に譲渡を検討していきます。たまりーなは、赤枠で囲ってあり建物自体は継続使用しますが、温水プール及び温浴施設がかなり老朽化をしていることも含め、今後10年間で廃止を検討していきます。東部ふくしあは、今後20年間で複合化を検討し、地域生涯学習センターや小中学校、学童保育所については、今後20年間で施設の統合・複合化を検討していきます。しかしながら、これは施設を一つにするのか、どうするのかという問題については今後検討していきます。最後に、赤枠のこだわりっばや大手門駐車場、駐輪場等は今後10年間で民間へ譲渡を検討する計画となっております。</p>
7	東中学校区	7	検討の進め方	市民意見	合意形成	<p>配布資料に対する質問は今回限りか。</p>	<p>今、説明をさせていただいた資料に関して、ご質問・ご意見はなかなか直ぐには出ないこともあろうかと思っております。市のホームページ上でアンケートを実施しておりますので、そちらでお答えをいただいたり、21-1167が担当しております企画政策課のFAX番号になりますので、そちらへご意見・ご質問をいただければと思います。なるべく皆様のご質問・ご意見をいただきたいと思っておりますのでご協力の程お願い申し上げます。</p>

8	東中学校区	8	再配置の方向性	その他		再配置や複合化を行うためには、それなりのスペースや新たな複合化に対応できる施設やスペースが必要になると思いますが、その場合、それなりの財源が必要になると思いますが、財源を含めどう対応するのか。	今回の再配置方針につきましては、基本的には耐用年数が到来した時に、施設の複合化等を進めていく計画になっております。先程申し上げましたが公共施設再配置計画の中では、今後50年間で公共施設の整備・再整備をする費用が2,034億円と試算をしております。2,034億円という試算の中で不足する財源を補うために、今回約25%の面積を減らしていこうという計画を立てております。当然、ご質問にありましたように新たな投資をしていくことについては、財源が必要になってまいりますので、見直しを進める中で運営経費や財源コストを削減する中で、費用の捻出をしていくことを想定しております。財源には色々なものがございますので、それについては当然確保を進めていくことを予定しているところであります。
9	東中学校区	9	再配置の方向性	個別施設	健康	具体的な再配置案について、その理由がわからなかったので知りたい。（ふくしあはほとんど残すのに、つどいの広場は譲渡する。なぜふくしあは譲渡できないのか。）	ふくしあは現在市内に5ヶ所ございます。ふくしあにつきましては、市が設置、それから運営を担って管理している施設でございますので、すぐに譲渡は難しい施設であります。それからつどいの広場につきましては、今、運営していただいております方々、利用されている方々が更に利用しやすい形、利用しやすい施設にしたいというものでございます。そういうことから掛川市の施設として運用していただくよりも、民間に譲渡してその中でお使いいただく方が、利便性が高まるのではないかとこの考え方で譲渡という方向性を出させていただいております。
10	東中学校区	10	検討の進め方	市民意見	合意形成	説明会が今後も計画されているか。用途別に分類されているが、用途別の対象者にも説明すべきと思う。	地区説明会が本日第1回目でございます。これからの説明会の開催等については未定でございますが、掛川市では皆様から多くのご意見をいただきたいと思っておりますので、ホームページ上のアンケートや電話、メール等でも、たくさんのご意見をお知らせいただければと考えております。また、各施設の事業化に関して事業を進めていく時には、実際の作業中も具体的に実施していく段階の際は、個別案件ごとに地域や利用者の皆様のお声を聞きながら、協議しながら具体的に進めていきたいと考えております。
11	東中学校区	11	検討の進め方	情報共有		広報掛川に何ヶ月かごとに掛川市の各公共施設の活用状況・維持管理費・人件費等をデータとして紹介してもらえると、その施設のこれからを自分の市のこととして、より深く考えることができるようになると思うがどうか。	掛川市は今、申し上げました施設について公共施設カルテという形で利用状況や収支状況をまとめております。ホームページの方で公開を検討しておりますので、近いうちに公開できるのではないかと考えています。広報掛川につきましては、10月号にこの公共施設関係のことをお知らせさせていただいております。ご覧をいただければと思います。
12	東中学校区	12	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと		公共施設の多少について、何を基準にすればいいのか、具体的な説明をお願いします。（財源不足のみを理由にされている）	掛川市の公共施設につきましては、建物系の公共施設面積がおおよそ45万㎡ございます。それで人口1人あたりにしますと、3.88㎡ということになって、県内では5番目に多い面積になります。1番から4番目は熱海市、御前崎市ですとか掛川市よりも人口規模の小さい都市ということになります。掛川市につきましては、同程度の人口規模である三島市や島田市の公共施設面積が、35万㎡以下であるのに対して、掛川市は先程申し上げました45万㎡とやや多い面積となっております。また、掛川市よりも人口が多い富士宮市ですとか焼津市、藤枝市のほうの面積も35万㎡以下であります。そういうような比較の中でも、掛川市内の公共施設面積はだいぶ多いのではないかとこのことをお解りいただけるのではないかと考えています。

13	東中学校区	13	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等		地区センターはすべて統合し、1カ所に集約とした場合、1カ所としたセンターについては相応の面積・規模を確保することになるのか。	現時点では、地区センター等のまち協の活動拠点については、再編後の小中学校への複合化を考えております。場合によっては、一つの学校に複数のセンターを統合する可能性もございます。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地域で共同利用することで、1地区では持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも使いやすい施設にできるのではないかと考えております。とは言いましても、この施設の検討につきましては、地区ごとに事情を考慮しつつ、地域の皆様と協議しながら慎重に進めていきたいと考えております。
14	東中学校区	14	再配置の方向性	個別施設	市営住宅		団地の入居者が極端に少なくなった場合、検討時期を早めることは可能か。	先程の説明にありましたように、この再配置方針（案）につきましては、10年単位で見直しをしていく予定でおります。そのため、その時々入居状況等を見ながら、見直しを行っていきたいと考えておりますので、検討時期を早めるという可能性もございます。そういうことでご理解をいただければと思います。
15	東中学校区	15	検討の進め方	その他			担当課とのすり合わせはどこまであるのか。	資料3にありますような公共施設の再配置案を作成するにあたり、当然、庁内担当課とのヒアリングは1年前前から続けております。なので、庁内連携については図れているものと考えております。
16	東中学校区	16	再配置の方向性	交通手段			統合・集約のメリットは頭では理解できた。しかし、施設が減るというイメージがするが、高齢化になるにあたり、施設までの便が気になる。利用しやすいと言っているが限られた利用者だけになってしまうのではないか。	先程申し上げましたように、移動手段は当然、施設との距離が長くなれば、市として検討していかねばならないと思います。現在、協議会の方でも移動手段の円滑化を進めていただいたり、あるいは教育長から話がありましたように、スクールバスを使ったり、あるいはスクールバスを昼間の時間帯に高齢者の方々に乗っていただいたり等、そういうこともこれから検討していくことで計画上は予定しているところであります。
17	東中学校区	17	再配置の方向性	財源不足	試算		掛川市を取り巻く状況：まとめの課題1から3までであるが、その中で課題2の厳しい財政状況に関して、財政支出の適正状況も課題にあげるべきでは。	行財政改革につきましては、平成21年度から掛川市は随時進めております。財源を確保するために、持続可能な行財政運営となるための取組を進めてきております。先ほどの説明の中で扶助費のこと、それから社会保障費のこと、そういったところばかりのご説明であったかもしれませんが、当然、掛川市全体予算額470億円の枠の中でこの投資も進めていくということになります。これにつきましては、ご質問にありましたように適正な財政運営というものはその前段のこととして、市としては常に注意していることでご理解をいただけたらと思います。
18	東中学校区	18	再配置の方向性	財源不足	試算	○	30億の不足は、いつからいつまでの想定か。	平成28年3月に策定した「公共施設等総合管理計画」において、公共施設の将来更新費用を試算しました。その試算によると、今後50年間（2016年～2065年）に今ある公共施設を維持更新していくのにかかる費用は1年あたり約70億円かかります。それに対し、現在の建設投資額や過去からの推移や今後10年程度の財政状況の推計を基に維持更新費用に充てられるお金がどの程度かを推計しました。その結果、今後の介護や医療等の社会保障関係費用の増加等を考慮すると、維持更新費用に充てられるお金は1年あたり約40億円程度と推計しています。維持更新費用が70億円かかる一方、財源が40億円であり1年あたり平均30億円の財源不足が生じます。

19	東中学校区	19	再配置の方向性	個別施設	地域生涯学習センター等	○	<p>Ⅱ期統合、複合化計画で、各センター（東中学校区）が対象になっているが、広範囲すぎて簡単に利用できなくなるのではないかと考えています。</p> <p>現時点では、地域学習センター等のまち協の活動拠点は、再編後の小・中学校への複合化を考えています。場合によっては、1つの学校に複数のセンターを統合する可能性もございます。現在の位置よりも地域から遠くなるかもしれませんが、複数の地区で共同利用することで、1地区ごとでは持てなかった大きい部屋を整備できたりする等、今よりも更に使いやすい施設にできると考えています。</p> <p>しかしながら、個々の統合・複合化については、地区ごとの事情を考慮しつつ各地域の皆様と協議しながら慎重に検討していきたいと考えております。</p>
20	東中学校区	20	再配置の方向性	小中学校の再編	通学	○	<p>Ⅱ期統合、複合化計画で、掛一小、西山口小、上内田小、東中となっているが、通学方法はどうするのか。</p> <p>施設までの距離が遠くなってしまう場合、児童・生徒に関してはスクールバスでの対応が考えられます。地域ごとに施設を集約し地域拠点とすることで、一定の需要を集めることができ更にスクールバスと兼ねることでバス路線を創出・維持することにも繋げたいと考えております。</p>